

食單

所聞多禰乃机之鳥能小螺乎伊拾持來而石以都追伎破夫利早川爾洗濯辛鹽爾古胡登毛美高杯
爾盛机爾立而母爾奉都也目豆兒乃負父爾獻都也身女兒乃負

〔空穂物語 梅の花笠〕さてうちよりいとものまいる。○中やつくゑいといかめしうはあらぬ、か

らのなまものなどして、よきうないどもかぎりなくさうぞかせてまいらす、

〔空穂物語 吹上之上〕ろくろしどもいで、ごきどもおなじものしてひく、つくゑたて、ものくふ、わ

んすゑて、さけのみなです、

〔長秋記〕元永二年五月三十日、三夜御養産也。○中 南庭立粥案、當階東間廳官一人、衣冠案下案上桶

一口、入粥立杓、

〔倭名類聚抄十四厨膳具〕食單 唐式云、鐵鍋食單各一、漢語抄云、食

〔延喜式二十四主計〕凡左右京五畿内國調、一丁輸錢、隨時増減其畿内輸雜物者。○中 一丁食薦七枚、長六尺廣

五二尺

〔延喜式三十八掃部〕雜給料略 ○中

編食薦一枚、長六尺廣三尺、料擇蘭一尺五寸、生絲五銖、長功一人、中功一人半、短功一人大半、

穉蔣食薦一枚、長六尺廣三尺、料穉蔣二尺、麻十三兩、長功半人、中功大半人、短功一人、

〔雅亮裝束抄〕だいきやうのこと

つくゑをたて、きやうをばすふるなり、其つくゑの玄たに、すごもといひて、みすのやうにあみ

て、えろきすゞしのきぬのうらつけて、まはりにえろきへりさしたるが、つくゑのひろさなるを、

つくゑごとの玄たにしくなり、

〔大饗雜事〕二簀薦事

裏ハ白生絹、其下ニ敷油單候也、鯖口折トハ、繪様獻之、裏ハ閉付候也、